

〔優秀賞〕

◇ 平等な社会 ◇

旗川小学校 5年 篠崎 心音

昔は、「女だから、家で家事や育児をしている。」や「男だから、働いて、お金をかせいでこい。」など、様々な男女差別の言葉であふれかえっていたと聞きます。昔は、と書きましたが、わたしは、今でも「女だから、おしとやかにしなさい。」や「男だから、泣くな。」など、やはり男女差別の言葉は、多いように思います。女性でも、活発でアウトドアが好きな人もいるし、男性でも、なみだもろい人がいるのだから、これらの言葉は、おかしいと思います。すべて個性だと思います。

男女差別は、言葉だけではありません。例えば、男性が育児休かを取るのがおずかしかったり、女性が男性と同じくらい働いても、もらえるお金が少なかったりということがあったと聞きました。わたしは、自分が出産したときは、子どもの父親には、いっしょに育児をしてほしいです。自分の体調も心配なので休かを取ってほしいです。

この前、興味をもったインターネットの記事がありました。それは、23才の女性が、パイロットとしてデビューしたという内容でした。おどろくと同時に、飛行機、電車、バスなどの運転手は、男性だという思い込みがあった自分に気付きました。日本でパイロットになるには、「女性だから」「前例がない」など、たくさんの苦労があったそうですが、あきらめずにがんばったのだそうです。努力が実り、ゆめがかなってよかったと思いました。男女平等な社会に向けて、前進しているのだなと思いました。

わたしのゆめは、しょう来、看護師になることです。以前は、男性は看護師、女性は看護婦と言われていました。調べてみると、今でも、女性のわり合が多いようですが、男性も活やくしていることが分かります。看護の仕事の中には、大きな男性の力にはかなわないことがあるかもしれませんが、女性の心や体のケアなど、同性の方がよい内容もあると思います。それぞれが、自分の得意分野を生かせるように勉強して、フォローし合える看護師になりたいです。男女関係なく、正しく評価される職場で、安心して力を発きして働きたいと思います。看護師のことを考えてみましたが、このことを通して、看護師だけに限らず、どんな職業についても、それがかなう職場であってほしいと思いました。

そのために、わたしは、今の自分にできることも考えてみました。例えば、学校で係を決めるときに、男女関係なく、得意な仕事や好きなことを生かせるようにしたり、リーダーを決めたりするとよいと思いました。また、力仕事や細かい仕事も、男女で協力して、いっしょにできるようにてい案できるのではないかと思います。男女差別のない社会にするために、わたしも行動していきたいです。